

令和4年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	有限会社アゴラ企画	
施 設 名	こまばアゴラ劇場・アトリエ春風舎	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	31,928	(千円)
	公 演 事 業	24,977 (千円)
	人 材 養 成 事 業	2,962 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	3,989 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	青年団『日本文学盛衰史』	R4. 9. 17～R5. 2. 6	原作：高橋源一郎、作・演出：平田オリザ、美術：杉山至、出演：島田曜蔵、永井秀樹、佐藤滋、他	目標値	3,300
		吉祥寺シアター、他		実績値	3,925
2	青年団『S 高原から』	R4. 4. 1～R4. 4. 24	作・演出：平田オリザ、舞台美術：杉山至、出演：海津忠、島田曜蔵、大竹直、他	目標値	1,265
		こまばアゴラ劇場		実績値	1,186
3	ひとつと。公演	R4. 4. 28～R4. 5. 8	『はなれながら、そだってく。』 作：こどもたち、演出：山下恵実 出演：小野彩加、川隅奈保子、他	目標値	442
		こまばアゴラ劇場		実績値	291
4	ムニ 公演	R4. 11. 3～R4. 11. 13	『ことばにない』 作・演出：宮崎玲奈、出演：石川朝日、浦田すみれ、他	目標値	612
		こまばアゴラ劇場		実績値	581
5	滋企画 公演	R5. 3. 24～R5. 3. 31	『K2』 作：パトリック・メイヤーズ、演出：伊藤毅、出演：太田宏、佐藤滋	目標値	530
		こまばアゴラ劇場		実績値	684
6	こまばアゴラ劇場公演 5～7月公演	R4. 5. 11～R4. 7. 18	Mrs. fictions『花柄八景』、いいへんじ『器／葉をもらいにいく葉』、第27班『ハヴ・ア・ナイス・ホリデー』	目標値	2,724
		こまばアゴラ劇場		実績値	2,253
7	こまばアゴラ劇場公演 8～10月公演	R4. 8. 26～R4. 10. 17	ニットキャップシアター『カレーと村民』、ばぶれるりぐる『いびしない愛』	目標値	654
		こまばアゴラ劇場		実績値	512
8	こまばアゴラ劇場公演 11～12月公演	R4. 11. 17～R4. 12. 18	劇団なかゆび『お國と五平』、小田尚稔の演劇『よく生きろ！』	目標値	1,166
		こまばアゴラ劇場		実績値	532
9	こまばアゴラ劇場公演 2～3月公演	R5. 2. 1～R5. 3. 12	お寿司『ヘレンと gesuidou』、したため『擬婉』、ゼロコ『The Writer』	目標値	1,102
		こまばアゴラ劇場		実績値	930

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	高校演劇ワークショップ ／高校演劇サミット	R4. 8. 6～R4. 12. 29	山手城南地区 高校演劇ワークショップ 参加者：山手城南地区の高校演劇部員、講師：島田曜蔵、井坂浩、泉田雄太、金澤昭、他	目標値	入場者 522名・ 参加者 60 名
		こまばアゴラ劇場	高校演劇サミット 2022 出場高校：芸術総合高校、都立千早高校、都立駒場高校、サミットプロデューサー：林成彦、サミットディレクター：田中圭介、制作：北村耕治、他	実績値	入場者 485名・ 参加者 94 名
2	こまばアゴラ劇場 演劇 ワークショップ研修会	R4. 4. 1～R5. 3. 31	講師：平田オリザ、田野邦彦、わたなべなおこ、林成彦、菅原直樹、河野悟、菊池ゆみこ、他	目標値	20
		こまばアゴラ劇場		実績値	169

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	駒場幼稚園 こまばクラブ演劇ワークショップ	R4.12~R5.1※中止	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	60
		駒場幼稚園 ホール		実績値	0 ※
2	福島県被災地域における演劇的手法を活用した「ふるさと創造学ワークショップ」及び「コミュニケーション能力向上ワークショップ」	R4.6.21~R5.2.17	集団での演劇創作および発表 出演者・スタッフ：有吉宣人、植浦菜保子、北村耕治、河野悟、村田牧子、森内美由紀、宮崎悠理、わたなべなおこ、他	目標値	1,000
		福島県立ふたば未来学園高等学校、他		実績値	1,196
3	海城中学校 「演劇を使ったコミュニケーション研修」事業	R4.4/ R4.9/R5.1	出演者、スタッフ：有吉宣人、窪田壮史、永井祐美子、森内美由紀、山本雅幸、石川雅人、他	目標値	960
		海城中学校内スタディールーム、他		実績値	960

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>当劇場のミッションは「世界水準の芸術作品創造」「『劇場文化』の定着」である。当劇場の位置する目黒区駒場は都心の住宅街となっているが、東京大学があり、渋谷からも徒歩圏内となっていることから、劇場周辺は多様な年齢層の人々が行き交っている。また、演劇の街である下北沢へのアクセスもほど近い。反面、劇場の位置する駒場東大前商店街は住民の高年齢化に伴い、空きテナントが増加し、少しずつにぎわいを失いつつある。このミッションと地域特性から、ミッションの達成に向け以下の事業を計画・実施した。</p> <ul style="list-style-type: none">・「公演事業」では9つの事業を実施した。『『劇場文化』の定着』を目指し実施している「劇場支援会員制度」の更なる促進や下北沢との差別化も意識しながら、年齢や趣味を問わず多くの観客が来場できるよう、エンタメ性や文学性など複数の視点から、実績が高く評価される中堅カンパニーや、これからの活躍が期待される新進気鋭の若手カンパニーなど、現在の舞台芸術界を牽引する計15団体を全国から募集し、劇場ラインナップとして1年を通して公演を実施した。また、子育て世帯の来場が少ないことを受け、ひとつごと。やゼロコといった、劇場へ足を運ぶハードルを下げるための工夫を取り入れた公演も実施した。・「人材養成事業」では、地域の高校生を対象とした「高校演劇ワークショップ」による未来を担う若手人材の育成を行い、続く「高校演劇サミット」によって作品発表や全国の高校生の作品に触れる機会を提供した。・「普及啓発事業」では、新型コロナウイルス感染症の影響により1事業を中止したが、当劇場が長年に渡って地域の児童や中高生向け演劇教育の受け皿となっている状況を踏まえ、子どもたちに向けた演劇ワークショップを2事業開催した。
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<ul style="list-style-type: none">●文化的意義：公演事業では、青年団『S 高原から』、Mrs. fictions『花柄八景』、いいへんじ『器』『薬をもらいにいく薬』が1000人を超える動員を達成するなど現在の観客層のニーズを掴んだ質の高い公演を提供できた。その他の上演も多数の新聞やWebメディアに劇評が掲載されるなど、時評を捉えた作品を多く創造できた。特に、中島詩織（いいへんじ）が執筆した『薬をもらいにいく薬』が第67回岸田國士戯曲賞最終候補にノミネートされた。人材養成事業・普及啓発事業では、地域の文化発展に寄与する若手人材を育成するとともに、ワークショップを通じて市民と劇場の垣根を無くし、劇場文化の普及と発信に寄与している。●社会的意義：公演事業では、地域のにぎわいの創出に寄与した。また「劇場支援会員制度」として劇場の観客を持つことで、観客とカンパニーの新たな出会いを創出できた。加えて、子供から物語や絵を募集し演劇作品に昇華するひとつごと。『はなれながら、そだってく。』の上演や、パントマイムを用いたゼロコ『Writer』の上演は、家族世帯や若年層の来場促進につながるなど、地域の民間劇場としての社会的な役割を果たすことにつながった。人材養成事業では、高校演劇ワークショップ・ワークショップ研修会といったアウトリーチを劇場が実施することで、民間劇場でありながら公共性の高さを保つことができている。普及啓発事業では演劇を活用したコミュニケーション教育を実施することで、通常の学校教育や一般のセミナー等とは一線を画したプログラムを提供出来ている。●経済的意義：公演事業では、公演ごとに適切なチケット料金や、割引を設定することで多くの観客が劇場に足を運ぶ機会となった。また、劇場主催で若手カンパニーの公演を実施することで、創作・公演機会の向上にもつながっている。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

●公演事業指標達成状況

①観客層ニーズへの徹底的な対応による来場者数増加に注力(事業番号 1~9)

- ・支援会員数(令和 4 年度目標 310 人→令和 4 年度実績 183 人)
- ・支援会員制度連携劇場数(令和 4 年 4 月 1 日時点目標 8 劇場→令和 4 年 4 月 1 日時点実績 7 劇場)
- ・ポストパフォーマンストーク開催回数(令和 4 年度目標 15 件→令和 4 年度実績 23 件)
- ・平日マチネ公演回数(令和 4 年度目標 20 回→令和 4 年度実績 25 回)
- ・メールマガジン発信数(令和 4 年度目標 20 件→令和 4 年度実績 32 件)

※新型コロナウイルスの影響により支援会員数が伸び悩んだ。

②若年層・高齢者・障害者・失業者等の来場推進(事業番号 1~9)

- ・支援会員特設割引制度による会員数(令和 4 年度目標 30 名→令和 4 年度実績 54 名)
- ・聴覚障害者向けに戯曲を事前無料配布する公演数(令和 4 年度目標 1 公演→令和 4 年度実績 0 公演)

③子育て世代の来場推進(事業番号 3)

- ・託児サービス対象公演数(令和 4 年度目標 1 公演→令和 4 年度実績 1 公演)

④自主企画制作公演の芸術水準向上による外部評価獲得(事業番号 1~9)

- ・新聞雑誌等主要メディアへの劇評記事等掲載件数(令和 4 年度目標 5 件→令和 4 年度実績 11 件)

⑤劇場レパートリー作品の実施推進による年間ラインナップ公演の魅力向上(事業番号 2)

- ・劇場レパートリー作品公演数(令和 4 年度目標 1 公演→令和 4 年度実績 1 公演)

⑥感染症対策に伴う座席数減少の影響を最小限に留める(事業番号 1~9)

- ・入場率(設定席数の 90%目標→実績 81%) ※新型コロナウイルスの影響により目標未達となった。

●人材養成事業指標達成状況

①高校演劇ワークショップ参加者の創作活動における能力発揮(事業番号 1)

- ・高校演劇ワークショップ参加者による創作作品数(令和 4 年度目標 12 件→新型コロナウイルスによる中止のため実績値なし)

②ワークショップ研修会参加者の普及啓発活動における能力発揮(事業番号 2)

- ・ワークショップ研修会参加者主体による普及啓発活動のコーディネート・ファシリテーション件数(令和 4 年度目標 5 件→令和 4 年度実績 3 件) ※新型コロナウイルスの影響により目標未達となった。

●普及啓発養成事業指標達成状況

①駒場幼稚園「こまばクラブ演劇ワークショップ」での、演劇を活用した教育機会の普及と来場者の拡充(事業番号 1)

- ・駒場幼稚園「こまばクラブ演劇ワークショップ」での上演来場者の増加(令和 1 年度実績 25 名→新型コロナウイルスによる中止のため実績値なし)

②東日本大震災の被災地域(主に福島県)にて演劇的手法を活用した「ふるさと創造学ワークショップ」「コミュニケーション能力向上ワークショップ」の実施を通じた、創造的復興の促進と拡充(事業番号 2)

- ・ふるさと創造学ワークショップの参加者数(令和 3 年度実績 150 名→令和 4 年度実績 996 名)
- ・コミュニケーション能力向上ワークショップの参加者数(令和 3 年度実績 22 名→令和 4 年度実績 200 名)

③海城中学校「演劇を使ったコミュニケーション研修」を通じた演劇の需要拡充(事業番号 3)

- ・海城中学校「演劇を使ったコミュニケーション研修」事業における参加者数の増加(令和 3 年度実績 960 名→令和 4 年度実績 960 名)

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業期間は年度単位として計画しており、適切である。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が少しずつ減り、基本的に事業計画通りに実施できた。一方で、マスク着用など感染症対策の方針が刻一刻と変化する中でさまざまな対応を迅速に行う必要があったが、適宜カンパニーと連携をとりながらスムーズに進行できたことから、一つ一つの事業単位で計画した公演期間やステージ数の計画が適切なものであったと判断できる。人材育成・普及啓発事業においても、これまでの運用の蓄積を元に以前までと同様に実施する計画を立て実施することができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業において、事業番号1：青年団『日本文学盛衰史』はツアーであったことから、まだまだ感染症対策を実施せざるをえない状況だったが、概ね計画通りに事業を実施できた。事業番号4：ムニ『ことばにない』において、当初上演時間を3時間と予定していたが、創作上の意向から4時間半に引き延ばした。追加の増員費がかかったが計画から大きくズレることはなく、若手カンパニーの支援に必要なリソースを割くことができた。そのほかの事業においては、概ね当初計画通りの事業費で実施することができている。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

公演事業では、芸術監督自らの作品の上演に加え、公募により劇場のプログラムオフィサーが選定を行う形式でミッション達成に向けたラインナップを取り揃えた。特に創造性が発揮された事業は以下の通り。

●青年団『日本文学盛衰史』

こまばアゴラ劇場芸術総監督の平田オリザによる作品の上演企画。当劇場が掲げるミッション「世界水準の芸術作品創造」達成に向け、兵庫・東京・大阪3都市でのツアーを行なった。劇場支援会員制度の特典で観劇できる演目だったこともあり、劇場と紐づく形で作品を創作し全国各地で上演を行えたことで、各地域での人流増加と新規観客層の獲得とともに、その影響を劇場へ還元することができた。また、長期にわたって創作に取り組む中で、最新の社会情勢を取り込みながら上演台本の改訂を行い、初演時よりも一層、原作小説『日本文学盛衰史』の根幹を描き出す作品となり、劇団の作風の変化を多くの人に伝えることができたこともステップアップにつながっている。

●青年団『S 高原から』

芸術総監督の平田オリザによる作品をこまばアゴラ劇場で上演する企画。現代演劇で死を描くことを大きな命題に据えた青年団レパートリー作品の『S 高原から』を、新たに所属した若手俳優中心にキャストिंगを一新して上演。「死」を丁寧に描いた作品は、コロナ禍という同時代的な感覚に共鳴し評判が高く、延べ動員1000人超を達成できた。商店街に位置する民間劇場で、世界水準に匹敵する作品を上演できたことは事業として有意義なものであった。

●ひとごと。『はなれながら、そだってく』

子供から絵や物語を募集し演劇作品に昇華し、大人も子供も楽しめる全年齢対象の上演。劇場や劇団がもつネットワークから地域の親子が観劇に訪れるなど、こどもたちが舞台芸術に触れる機会を創出することができ、劇場として子供向けの事業を行えたことで文化芸術が担う教育的側面の効果を実感することができた。また、親子連れが快適に観劇できる環境を整えるために設置したテント席は評判が良く、今後の事業での参考になる事例を作ることができた。また作品そのものとしても、「演劇最強論-ing」が実施した劇評企画『先月の一本』に取り上げられるなど、クオリティの高さも評価された。

●ムニ『ことばにない』

宮崎玲奈が作・演出を担う演劇カンパニーの新作超長編演劇。レズビアンアイデンティティを巡る様々な葛藤や差別を真正面から描き、4時間を超える上演時間となった本作品は、挑戦的な取り組みが高く評価された。あらゆる作品におけるレズビアンステレオタイプの描き方に疑問を提示し、丁寧な心情描写に比重を置いた本作は、朝日新聞に劇評も掲載され、600名近い動員を達成。劇場が主催となり若手カンパニーを支援してきた成果を実感させる事業となった。

●滋企画『K2』

俳優・佐藤滋が主体となって作品を創造する企画。旧来的な「選ばれるだけの立場」という俳優像から、「自ら作り立ち上げる」という新たなイメージへと刷新できるような公演となった。演劇界において、演出家が権威を持つばかりではないクリエイションが行われることは、今の演劇界において重要な出来事である。作品としてもartscapeに劇評が掲載されるなど、旗揚げながら700名近い動員を達成。高クオリティの上演を提供できた。（実績報告時は公演が終了していなかったため未集計）また、これらひとごと。、ムニ、滋企画の主軸は、本助成事業においてこまばアゴラ劇場が平成25年度～平成30年度まで継続的に開催してきた人材養成事業「こまばアゴラ演劇学校・無隣館」の出身者であり、継続的な人材育成や公演事業が着実に成果を上げている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

●Mrs. fictions 『花柄八景』

2012年に初演した演目の再演。近年、本多劇場や吉祥寺シアターなど大きな劇場での公演を行なっているカンパニーだが、こまばアゴラ劇場という比較小規模なキャパシティの劇場でロングランを実施、1000人を超える動員を達成した。また、こまばアゴラ劇場が持つ観客層とカンパニーがこれまで培ってきた観客層の違いが、カンパニーと観客と新たな出会いの機会ともなったほか、新たな観客層が当劇場に足を運び地域の活性化につながった。

●いいへんじ 『器／葉をもらいにいく葉』

精神疾患やケアを取り巻く人々の様子を描く二作を上演。近年、文化芸術業界で注目されている「ケア」を丁寧に取り上げることで、さまざまな人に響く作品となった。二作のうち『葉をもらいにいく葉』は、第67回岸田國士戯曲賞最終候補に選出され、精神疾患を抱える主人公と彼女に向き合う人々の葛藤やケアの手つきが会話によって言語化されていく過程を描いたテキストの強度とリアリティが多くの人に評価された。若手カンパニーながら様々に評価を受けてきた「いいへんじ」だったが、挑戦的に打ち立てた企画を劇場がサポートし、創作環境を整えることができたことが成果につながったことを実感している。

●ばぶれるりぐる 『いびしない愛』、お寿司 『ヘレン／gesuidou』、したため 『擬婉』

ばぶれるりぐるの『いびしない愛』は第26回劇作家協会新人戯曲賞を受賞作品。また主宰の竹田モモコは「日本の劇」戯曲賞2022最優秀賞を受賞するなど注目されつつあるカンパニーの一つである。お寿司は『ヘレン』『gesuidou』という二作を上演。先鋭的でありつつも、わからなさを受容することを考えさせられる内容は評判を呼びWebメディアRealTokyoに掲載された。したためは、これまで幾度となくバージョンアップしながら再演を繰り返してきた作品の上演。妊娠・出産を経験したことない俳優4名がシミュレーションする過程を経て、その行為の特殊性と難しさを見事に表現した。地方カンパニーにとって障害となる東京でのツアー公演を支援することの意義を感じさせる事業となった。また、首都圏にいたるだけではなかなか触れる機会の少ない地方の演劇カンパニーを紹介し高水準の作品を提供する、首都圏の民間劇場としての重要な機能を果たすこととなった。

●ゼロコ 『The Writer』

パントマイムを取り入れたコミカルなフィジカルシアターの上演。普段当劇場に足を運んでいない若年層が多く来場し、劇場へのイメージを更新することができたと感じている。カンパニーにとっても新たな客層との出会いとなった。先鋭的なものが多く上演される劇場で、場所を同じくしてエンタメ性、キャッチーさの高い作品が上演されることは民間劇場ながら公共性の高さを示し、首都圏におけるリーディングシアターとしての立ち位置をより強固なものにした。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

これまで人材育成事業として実施してきた「こまばアゴラ演劇学校・無隣館」では、一期2年のスパンで、これまで三期にわたって開催し、多くの才能を輩出してきた。今年度の公演事業3「ひとつと。公演」・公演事業4「ムニ 公演」・公演事業5「滋企画 公演」は、それぞれ事業遂行の中核を担う人材が、この「こまばアゴラ演劇学校・無隣館」の出身者であり、劇場を通じて若い才能が段階的・持続的にステップアップ出来ている。

こうしたことを始め、こまばアゴラ劇場が実施した公演事業や人材養成事業によって、年間を通じて絶えず新しい才能の発掘と育成に努めた。こうした若手の作家・実演家達は、自身で集団を立ち上げたりなどして創作を行い、プログラムオフィサー選定の下、公演事業としてこまばアゴラ劇場で上演を行う。また創作活動だけではなく、ワークショップ等の普及啓発・アウトリーチ活動についても、内部でファシリテーターの養成・育成を行い、こまばアゴラ劇場が持つネットワークを通じて全国で事業を展開しており、こうした活動が作品の招聘へと繋がるケースも多い。そうした意味においても、こまばアゴラ劇場が実施する公演・人材養成・普及啓発といったそれぞれの事業によって、単発の独立した企画ではなく、それぞれの事業が互いに影響を及ぼし合うことで、劇場の「機能強化」が推進されている。